

東京外語会主催 文化講演会

## シリア、イラクにおけるイスラーム国の台頭： 中東民主化とテロとの戦いの欺瞞

講師：青山弘之 東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授

日時：12月13日（土）午後2時—4時（続いて懇親会）

場所：東京外国語大学本郷サテライト4階



### 講師紹介

1991年東京外国語大学アラビア語学科卒業、98年一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程単位取得退学。ダマスカス・フランス・アラブ研究所（現フランス中東研究所）共同研究員、JETROアジア経済研究所研究員などを経て2009年より現職。主な著作に、『現代シリア・レバノンの政治構造（アジア経済研究所叢書5）』（共著、岩波書店、2009年）、『混迷するシリア—歴史と政治構造から読み解く—』（岩波書店、2012年）などがある。またウェブサイト「シリア・アラブの春 顛末記」(<http://syriaarabspring.info/>)を運営。

### <講師からのメッセージ>

2014年6月、ISIS、ISILなどと呼ばれて来たアル=カーイダ系武装集団がイラク第2の都市モスルを制圧、同月末には「イスラーム国」を宣言、指導者のアブー・バグダーディーは「カリフ」を名乗りました。これによって「イスラーム国」は突如として「国際社会の脅威」として注目されることになりましたが、その台頭は中東、なかでもアラブ世界の政治史のなかでどのような意味を持っているのでしょうか？ この講演では、アラブ世界の政治を語る際に引き合いに出される「民主化」、「テロとの戦い」という二つのキーワードを軸に、「イスラーム国」台頭の意味を考えたいと思います。